

18歳意識調査

「第52回 -価値観・ライフデザイン-」

報告書

日本財団 2023年1月6日

目次

調査概要	3
結果概要	4
1. 現状に対する認識・将来の暮らし方に対する考え方	
人生において大切にしたいこと	6
将来暮らしたい場所	9
2. 働き方・キャリアに対する価値観	
何歳まで働くか	12
就きたい職業、その理由	14
働く環境における重視項目	19
新しい働き方への考え	20
3. パートナーシップ・結婚に対する考え方	
将来結婚したいか/実際に結婚すると思うか、その理由	22
多様なパートナーシップへの考え	30
4. 子どもをもつこと・子育てに対する考え方	
将来子どもを持ちたいか/実際に持つと思うか、その理由	32
自世代と子どもの将来との比較	37
5. 政府の少子化対策に対する考え	
少子高齢化への危機感	39
少子高齢化対策への評価	40
実施してほしい少子化対策	41
少子化対策の財源	42
示唆	43
付帯資料	44

調査概要「18歳意識調査」 -価値観・ライフデザイン-

調査対象

全国の17歳～19歳男女

回答数

1,000

※性年齢別の人口比率に合わせ、下記の通り割り付けを実施。

	17歳	18歳	19歳	計
男性	168	170	176	514
女性	159	160	167	486
計	327	330	343	1,000

実施期間

2022年12月2日（金）～12月5日（月）

調査手法

インターネット調査

注記1：回答者がインターネット利用者に限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも日本全体の17～19歳男女に妥当するものではない。

注記2：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

第52回18歳意識調査

「-価値観・ライフデザイン-」

結果概要

1 人生における重要事項

- ① 男女とも、人生においてもっとも大切にしたいと思っていることとして「家族」、次いで「自身の好きなことややりたいこと・趣味」を選んだ人が多い。
- ② 将来暮らしたい場所としては、男女とも4割弱が日本の大都市、3割強が日本の地方都市を選んでおり、併せて8割以上が、将来日本で暮らすことを希望。

2 働き方・キャリア

- ① 自分が何歳まで働くかについて、「65歳」との回答が約3割ともっとも多かったが、「86歳以上、生きている限り」働くと回答した人も1割弱存在。
- ② 将来就きたい職業としては男女とも「会社員（事務職・営業職など）」が人気。社会貢献性の高さが、希望の職業を選ぶ理由として男女とも多く選ばれている。

3 パートナーシップ・結婚

- ① 将来結婚したいと回答した人は男女とも4割を超えているが、実際に将来結婚を「必ずすると思う」と回答した人は男性で2割弱、女性では1割強のみ。結婚しないと思う理由としては、男女とも恋人・パートナーの不在が多く選ばれている。
- ② 新しいパートナーシップの形については、賛成派が7～8割を占める。

4 子ども

- ① 男女とも6割前後が「将来子どもを持ちたい」と回答したが、実際に持つと思う人は男女とも4割台にとどまっている。
- ② 女性では「将来子どもを持ちたくない」と回答した人も3割弱存在。男性よりも女性が子育てに関する金銭的・精神的負担を感じているとの結果。

5 政策への評価

- ① 少子高齢化に「危機感を感じる」と回答した人が男女とも7割超で、政府の対応については約8割が「不十分である」と回答。
- ② 実施してほしい少子化対策としては、男女とも「教育の無償化」など経済的な支援が多く選ばれている。

詳細

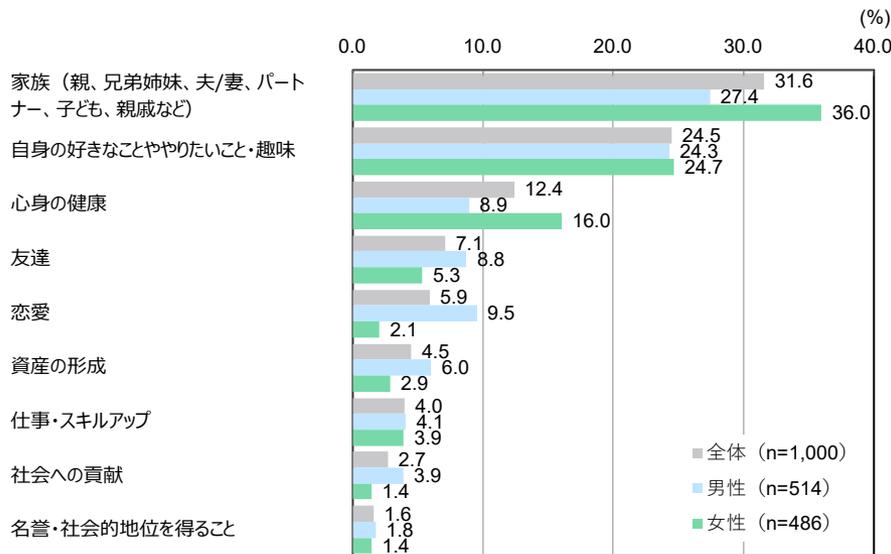
1. 現状に対する認識・将来の暮らし方に対する考え方
2. 働き方・キャリアに対する価値観
3. パートナーシップ・結婚に対する考え方
4. 子どもをもつこと・子育てに対する考え方
5. 政府の少子化対策に対する考え

人生において大切にしたいこと（性別）

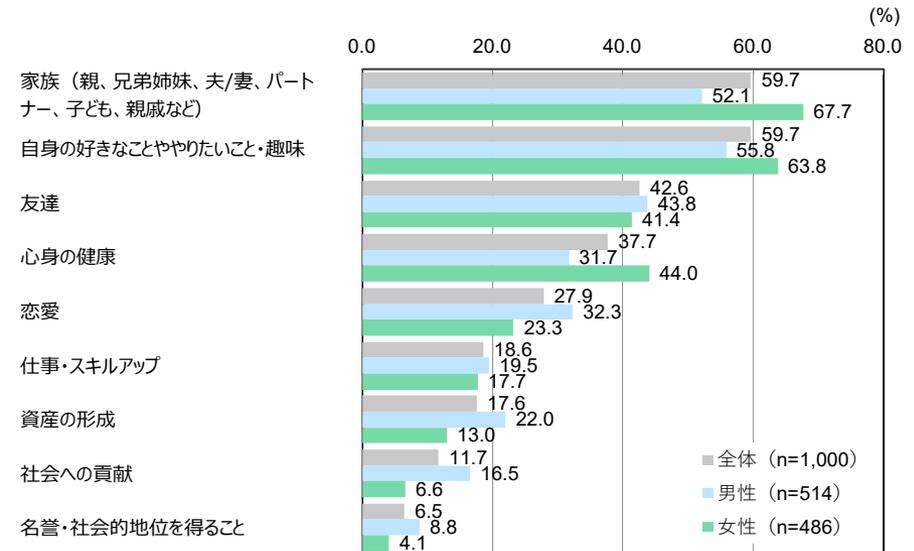
人生において大切にしたいことの1位は、男性、女性とも「家族」である。1位から3位を合計すると、男性では「自身の好きなことややりたいこと・趣味」が「家族」を上回る一方、女性では1位のみと同じく「家族」がもっとも多く、「自身の好きなことややりたいこと・趣味」が続く。

質問2：あなたの人生において、大切にしたいと思っていることは何ですか。上位3つを選んでください。
（選択式（複数））

1位



1～3位の合計



※1 全体の降順で掲載。

※2 「1位」は「大切にしたいものはない」と回答した人が全体4.9%、男性4.7%、女性5.1%。「大切にしたいものはない」は複数回選択できる設定としたため、1～3位では分析対象外とした。

※3 掲載している項目のほか、「その他」として、以下の回答があった。

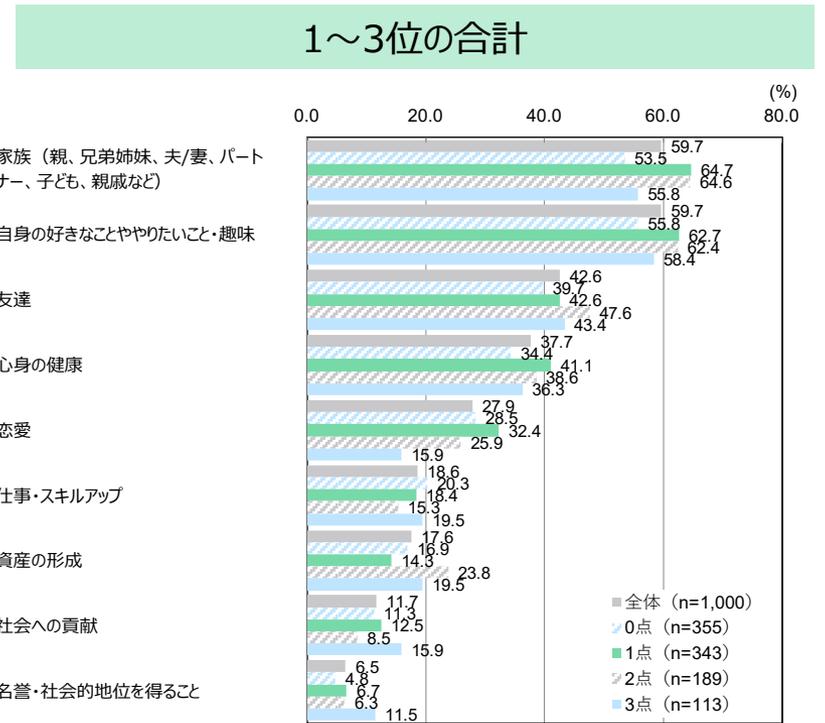
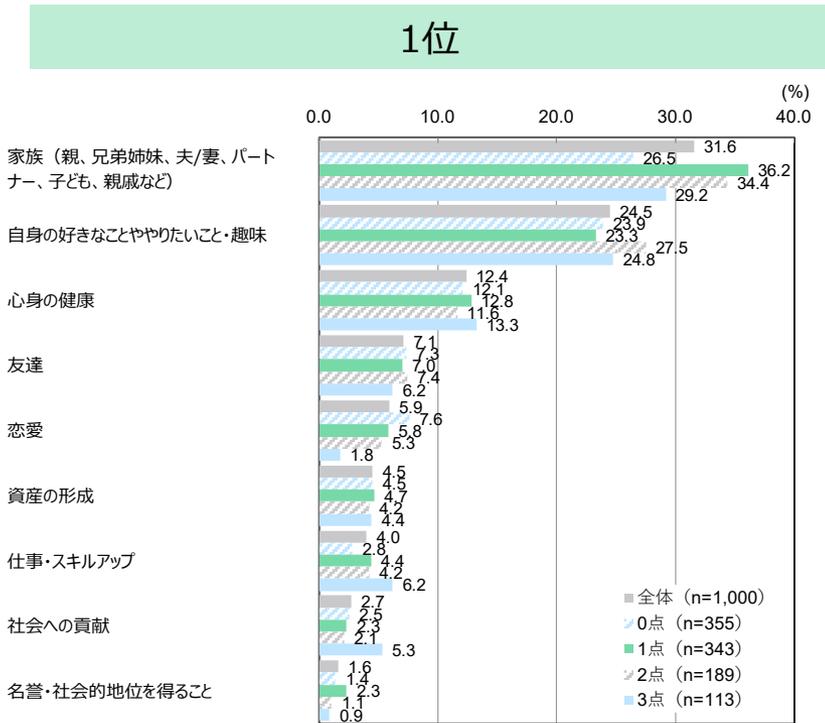
男性：部活、推し活、現状、ゲーム、自由、腹筋、夢、穏やかな生活

女性：お金（複数回答）、自分自身（複数回答）、自分の気持ち、暇な時間、様々な事柄について、自分の頭で考えること、好きな人

人生において大切にしたいこと（簡易版SES別）

「簡易版社会経済的地位代替指標（以下、簡易版SES代替指標と記載）」（※1）を用いた分析によると、同指標の得点が高い（3点）回答者は「仕事・スキルアップ」や「社会への貢献」を1位に上げる割合が高い。1～3位の合計では、得点が高い回答者は「恋愛」を挙げる人の割合が低い。また、得点が高い（0点）回答者は「大切にしたいものはない」との割合も多い（※3）。

質問2：あなたの人生において、大切にしたいと思っていることは何ですか。上位3つを選んでください。（選択式（複数））



※1 石井 僚, 村山 航, 福住 紀明, 石川 信一, 大谷 和太, 榎 美知子, 鈴木 高志, 田中 あゆみ, 家庭の所有物を用いた中学生用簡易版社会経済的地位代替指標の作成, 心理学研究, 2019, 90 巻, 5 号, p. 493-502, 公開日 2019/12/25, <https://doi.org/10.4992/jpsy.90.18233>

※2 全体の降順で掲載。

※3 「1位」は「大切にしたいものはない」と回答した人が全体4.9%、0点10.7%、1点0.9%、2点0.5%、3点6.2%。「大切にしたいものはない」は他項目と異なり複数回選択できる設定としたため、1～3位では分析対象外とした。

報告書中の「簡易版SES」について

- 人生観や職業観は、育った家庭の経済状況や両親の教育水準・職業的地位や、またそれらの結果としての環境全般に影響を受ける可能性がある。
- 本調査では、そうした家庭環境による影響の差の有無・程度も確認するため、家庭の社会経済的地位（SES）別の比較分析も実施した。
- SESの指標としては、OECDが実施する生徒の学習到達度調査（PISA）で用いられている17項目を簡略化した「簡易版SES代替指標（※）」を引用・使用した。詳細は末尾の付帯資料参照。
- 簡易版SES代替指標は、0～3点で表され、高ければ高いほど、家庭の社会経済的地位が高いことを示す。

あなたが中学生の頃、あなたの家には次のものはありましたか。（はい／いいえ）

- 文学作品（例：夏目漱石，芥川龍之介）
- 美術品（例：絵画）
- 食器洗い機

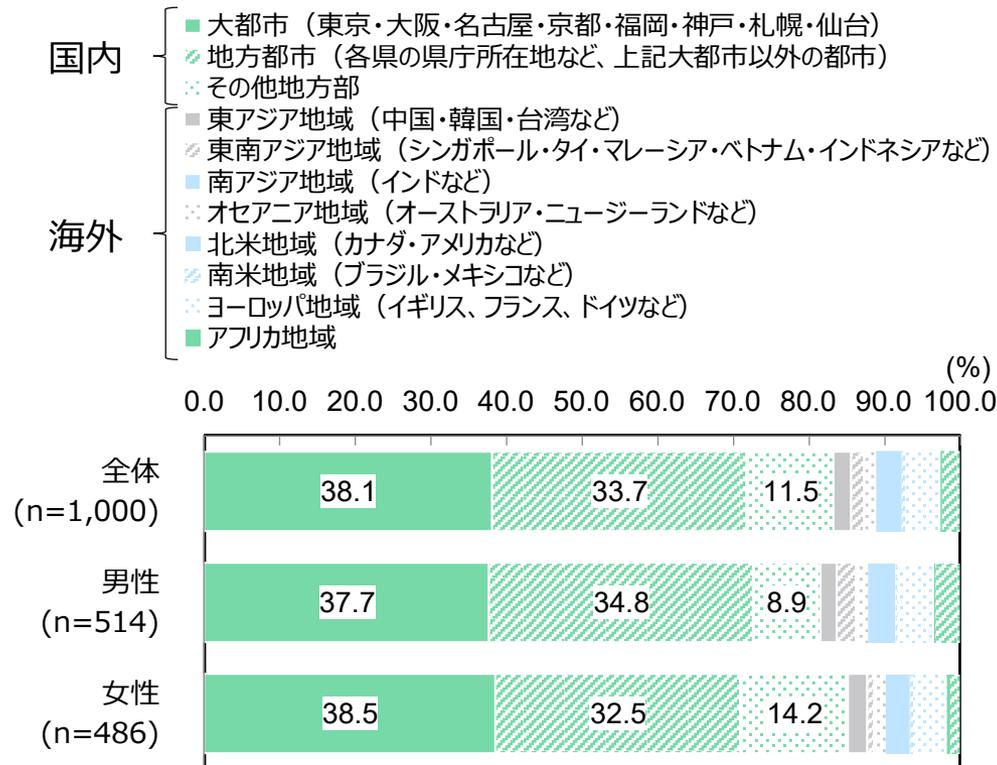
1つ該当するごとに、簡易版SESに1点加え、0～3点に回答者を分類。

※出典：石井 僚，村山 航，福住 紀明，石川 信一，大谷 和大，榎 美知子，鈴木 高志，田中 あゆみ，家庭の所有物を用いた中学生用簡易版社会経済的地位代替指標の作成，心理学研究，2019，90 巻，5 号，p. 493-502，公開日 2019/12/25，<https://doi.org/10.4992/jjpsy.90.18233>

将来暮らしたい場所（性別）

将来暮らしたい場所としては、男女とも、4割弱が日本の大都市、3割強が日本の地方都市を選んでる。日本の地方部を選んだ人も男女各1割程度存在し、これらを合わせると男女とも8割以上が将来日本で暮らすことを希望している。

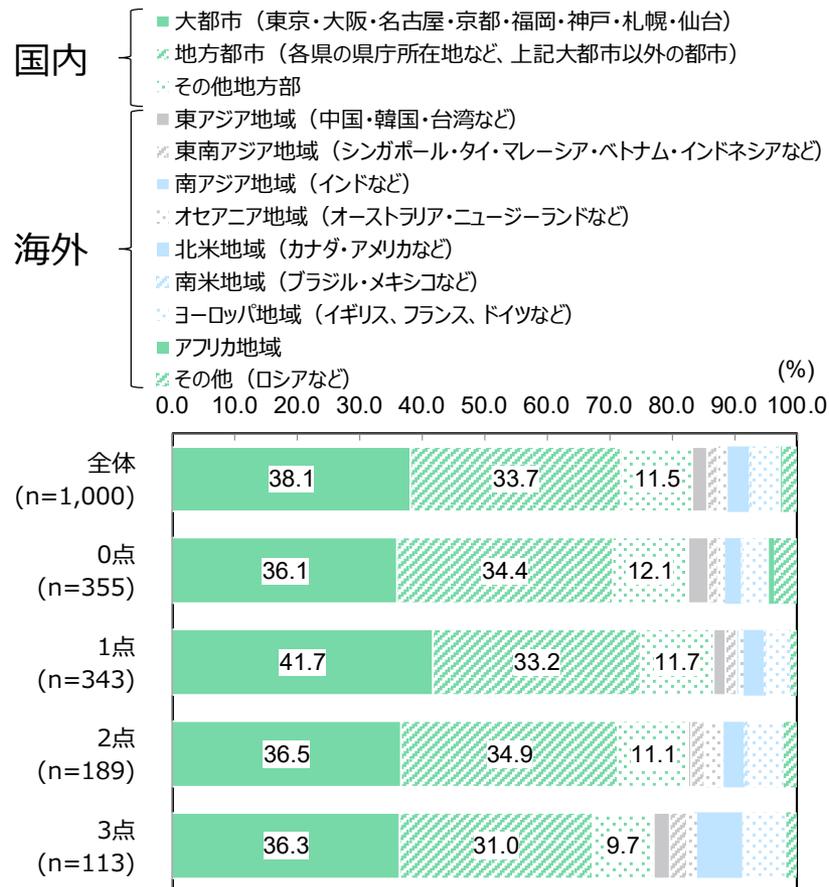
質問3：あなたは、将来、どこで暮らしたいと考えますか。あなたの現在の考えにもっとも近いものを次の中から選んでください。（選択式（単一））



将来暮らしたい場所（簡易版SES別）

簡易版SES代替指標の得点が高い（3点）は、将来海外で暮らしたいと回答した人の割合が高い。

質問3：あなたは、将来、どこで暮らしたいと考えますか。あなたの現在の考えにもっとも近いものを次の中から選んでください。（選択式（単一））



詳細

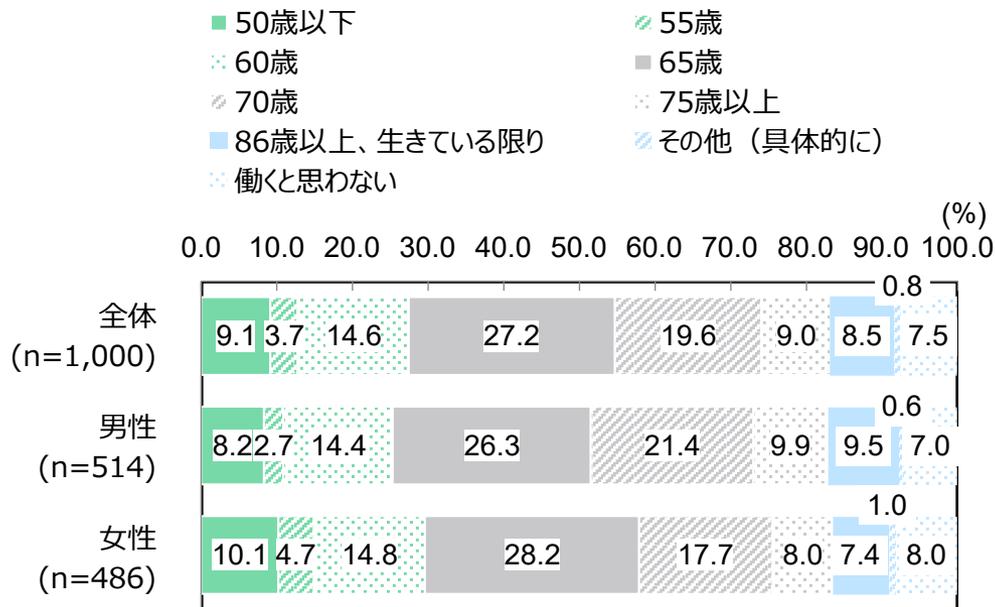
1. 現状に対する認識・将来の暮らし方に対する考え方
2. 働き方・キャリアに対する価値観
3. パートナーシップ・結婚に対する考え方
4. 子どもをもつこと・子育てに対する考え方
5. 政府の少子化対策に対する考え

何歳まで働くか（性別）

男女とも、65歳が約3割と最も多く選択されており、70歳が約2割で続く。「86歳以上、生きている限り」と回答した人も男女とも1割弱存在している一方、「働くと思わない」も同程度選ばれている。

質問4：日本では、2013年の「高年齢者雇用安定法」の改正により、企業には希望者全員に65歳までの雇用が義務付けられ、さらに、2021年4月からは、70歳までの就業機会確保が企業の努力義務になるなど、働く年齢が延びる傾向にあります。あなたは、自分は何歳まで働くと思いますか。

（選択式（単一））

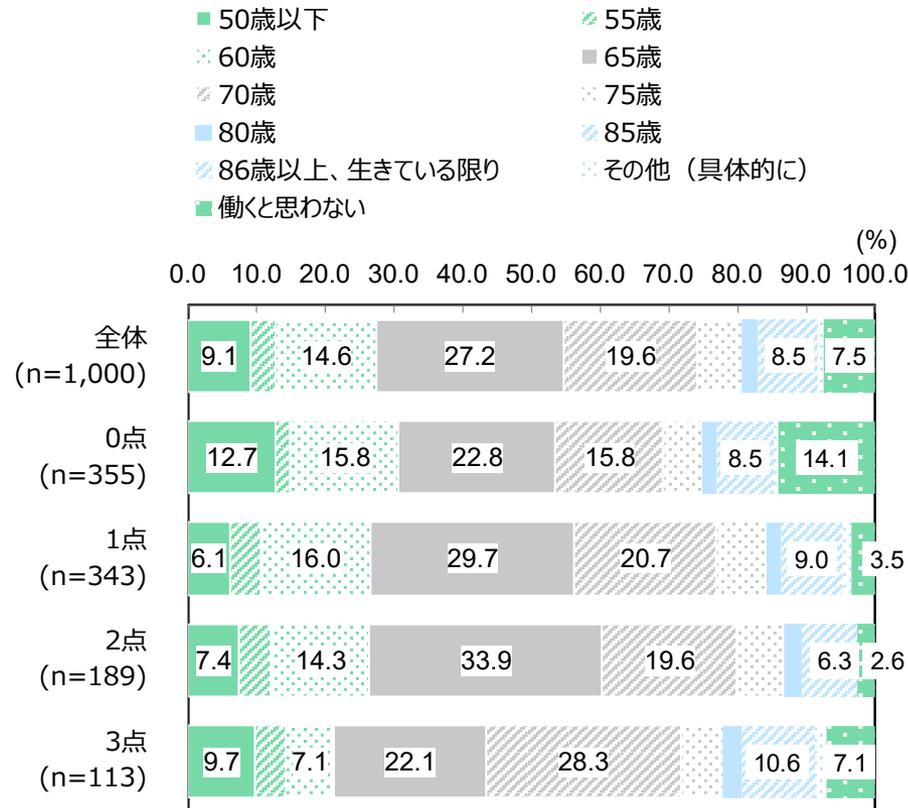


何歳まで働くか（簡易版SES別）

簡易版SES代替指標の得点が低い（0点）回答者は「50歳以下」や「働くとしない」との回答者比率が高く、同指標の得点が高い（3点）回答者は「70歳」との回答比率が高い。

質問4：日本では、2013年の「高年齢者雇用安定法」の改正により、企業には希望者全員に65歳までの雇用が義務付けられ、さらに、2021年4月からは、70歳までの就業機会確保が企業の努力義務になるなど、働く年齢が延びる傾向にあります。あなたは、自分は何歳まで働くとお考えですか。

（選択式（単一））

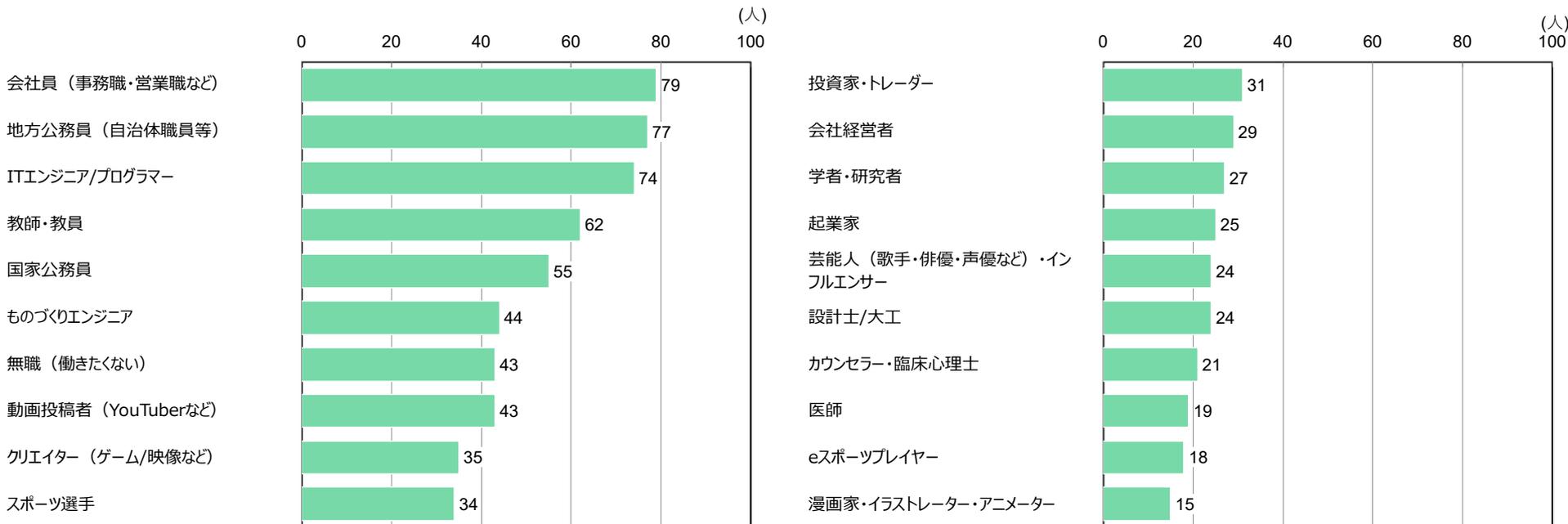


就きたい職業

将来就きたい職業として男性からもっとも多く選ばれているのは、「会社員（事務職・営業職など）」であり、「地方公務員（自治体職員等）」、「ITエンジニア/プログラマー」がそれに続く。「無職（働きたくない）」も7位に入っている。

質問5：あなたは、以下のうちどの職業に就きたいと思いますか。3つまで選んでください。（選択式（複数））

男性（n=514、上位20位までを抜粋）

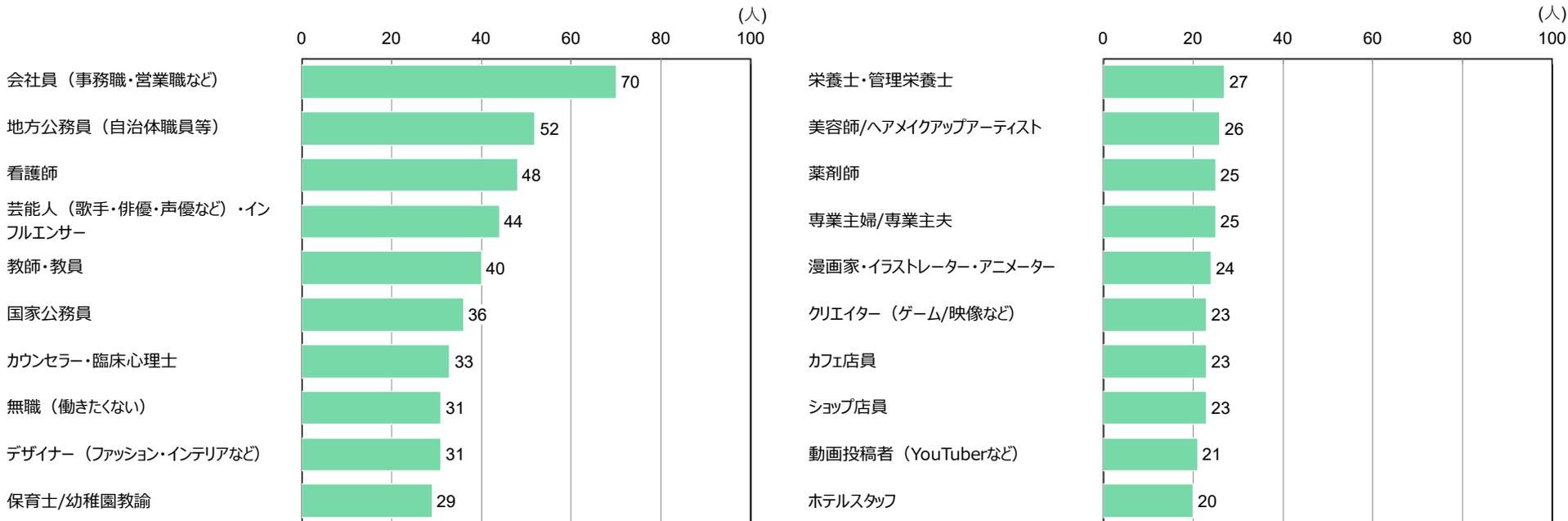


就きたい職業

将来就きたい職業として女性からもっとも多く選ばれているのは、男性と同じく「会社員（事務職・営業職など）」。「地方公務員（自治体職員等）」、「看護師」がそれに続く。「無職（働きたくない）」も8位に入っている。

質問5：あなたは、以下のうちどの職業に就きたいと思いますか。3つまで選んでください。（選択式（複数））

女性（n=486、上位20位までを抜粋）



参考：就きたい職業の選択肢

質問5：あなたは、以下のうちの職業に就きたいと思いますか。3つまで選んでください。（選択式（複数））

政治家
国家公務員
地方公務員（自治体職員等）

弁護士
医師
歯科医師
薬剤師
看護師
介護職員

学者・研究者
教師・教員
保育士/幼稚園教諭
栄養士・管理栄養士
カウンセラー・臨床心理士

投資家・トレーダー
会社経営者
起業家

会社員（事務職・営業職など）
設計士/大工
ものづくりエンジニア
ITエンジニア/プログラマー
デザイナー（ファッション・インテリアなど）
コンサルタント

シェフ/パティシエ
美容師/ヘアメイクアップアーティスト
トリマー/ペットショップ店員
ショップ店員
カフェ店員
ホテルスタッフ

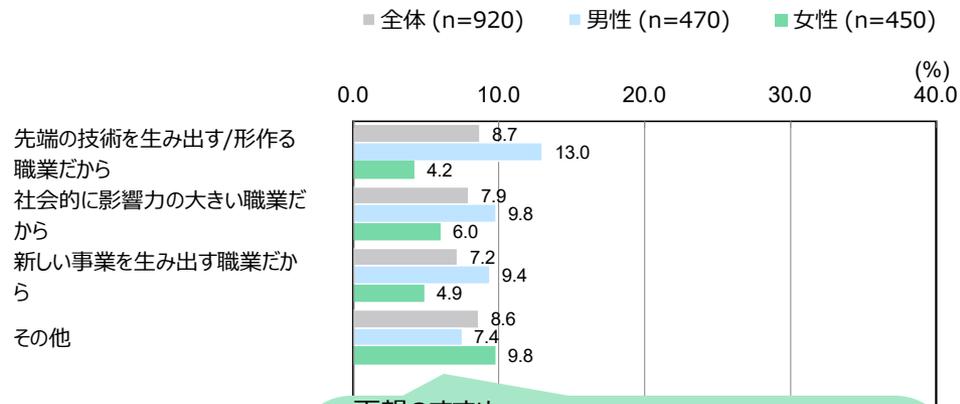
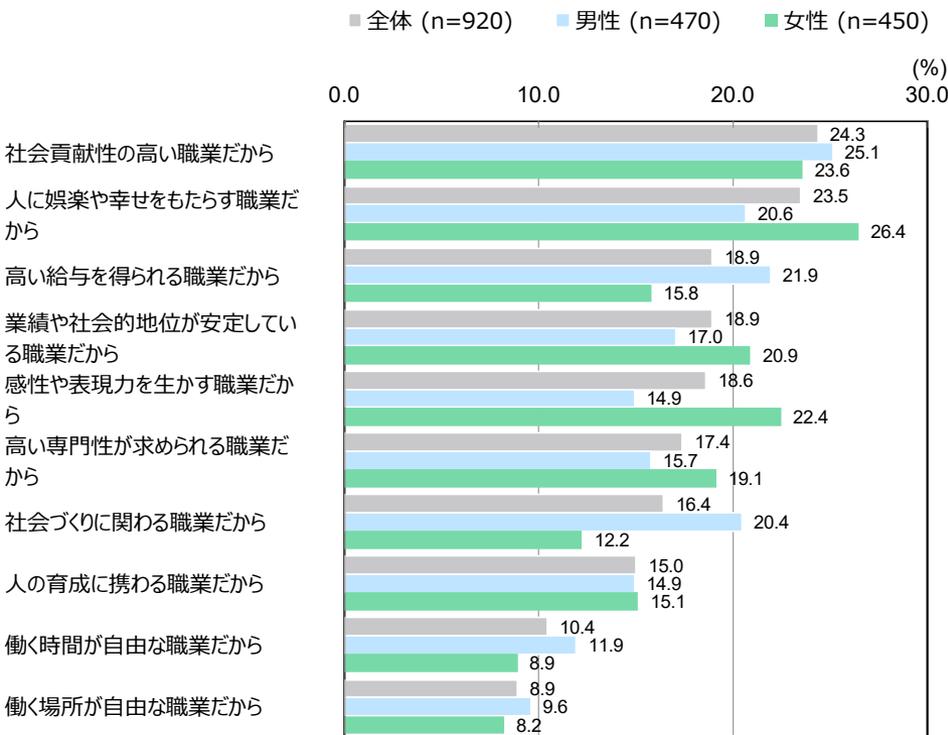
作家・ライター
クリエイター（ゲーム/映像など）
動画投稿者（YouTuberなど）
芸能人（歌手・俳優・声優など）
インフルエンサー
記者・テレビ局スタッフ
漫画家・イラストレーター・アニメーター
スポーツ選手
eスポーツプレイヤー

NPO職員、ソーシャルワーカー
専業主婦/専業主夫
その他（自由記述）
無職（働きたくない）

就きたい職業を選んだ理由（グラフ）

前問の職業を選んだ理由としては、「社会貢献性の高い職業だから」が男女に共通して多く選ばれている。女性では「人に娯楽や幸せをもたらす職業だから」や「感性や表現力を生かす職業だから」、男性では「高い給与を得られる職業だから」や「社会づくりに関わる職業だから」などが異性よりも多く選択されている。

質問6：あなたはなぜ、質問5の職業を選びましたか。理由としてあてはまるものを3つまで選んでください。（質問5で「無職（働きたくない）」、または「専業主婦/専業主夫」のみを選んだ人、以外に表示）。（選択式（複数））



- 両親のすすめ
- 興味のある分野だから（複数回答）
- 自分が好きだと思えることだから（複数回答）
- 自分に向いていると思うから
- なんとなく
- 趣味や知識を活かせるから
- 出来そうなのがこれしかない
- 大学での勉強と関係しているから（複数回答）
- やりがいのある職業だから（複数回答）
- カッコいいから
- 派手髪OKで服装自由だから（複数回答）
- 手に職をつけたかったから
- 自分が楽しめそうだから

就きたい職業を選んだ理由（数表）

就きたい職業を選んだ理由は男女で順位が異なっている。

質問6：あなたはなぜ、質問5の職業を選びましたか。理由としてあてはまるものを3つまで選んでください。
 （質問5で「無職（働きたくない）」、または「専業主婦/専業主夫」のみを選んだ人、以外に表示）。
 （選択式（複数））

男性（n=470）	
1位	社会貢献性の高い職業だから(23.0%)
2位	高い給与を得られる職業だから(20.0%)
3位	人に娯楽や幸せをもたらす職業だから(18.9%)
4位	社会づくりに関わる職業だから(18.7%)
5位	業績や社会的地位が安定している職業だから(15.6%)
6位	高い専門性が求められる職業だから(14.4%)
7位	感性や表現力を生かす職業だから(13.6%)
8位	人の育成に携わる職業だから(13.6%)
9位	先端の技術を生み出す/形作る職業だから(11.9%)
10位	働く時間が自由な職業だから(10.9%)
11位	社会的に影響力の大きい職業だから(8.9%)
12位	働く場所が自由な職業だから(8.8%)
13位	新しい事業を生み出す職業だから(8.6%)
14位	その他(6.8%)

女性（n=450）	
1位	人に娯楽や幸せをもたらす職業だから(24.5%)
2位	社会貢献性の高い職業だから(21.8%)
3位	感性や表現力を生かす職業だから(20.8%)
4位	業績や社会的地位が安定している職業だから(19.3%)
5位	高い専門性が求められる職業だから(17.7%)
6位	高い給与を得られる職業だから(14.6%)
7位	人の育成に携わる職業だから(14.0%)
8位	社会づくりに関わる職業だから(11.3%)
9位	その他(9.1%)
10位	働く時間が自由な職業だから(8.2%)
11位	働く場所が自由な職業だから(7.6%)
12位	社会的に影響力の大きい職業だから(5.6%)
13位	新しい事業を生み出す職業だから(4.5%)
14位	先端の技術を生み出す/形作る職業だから(3.9%)

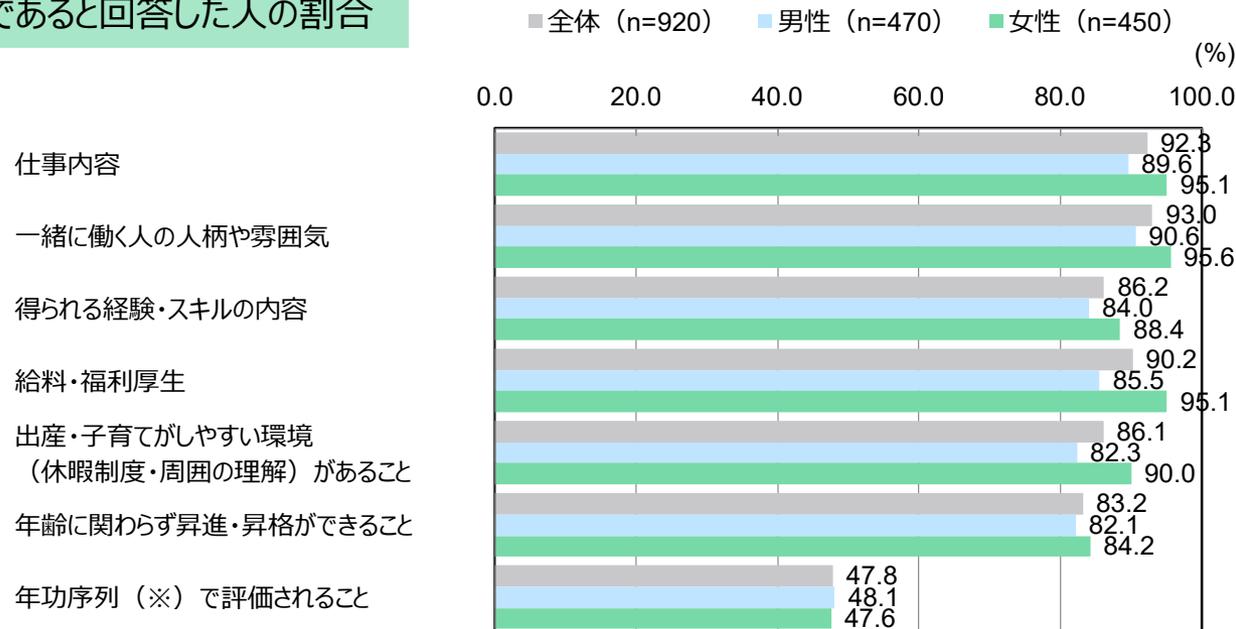
働く環境における重視項目

働く環境における重視項目を聞いたところ、男女とも「重要である」と回答した人の割合がもっとも多かったのは「一緒に働く人の人柄や雰囲気」。「仕事内容」、「一緒に働く人に働く人の人柄や雰囲気」、「給料・福利厚生」、「出産・子育てがしやすい環境」の4項目では男性よりも女性で「重要である」と回答した人が多かった。

※「重要である」と「どちらかと言えば重要である」の合計。

質問7：あなたにとって、以下に示す項目は、働く環境を選ぶ際にどの程度の重要性を持ちますか。それぞれの項目について一つずつ、あてはまるものを選んでください。（質問5で「無職（働きたくない）」、または「専業主婦/専業主夫」のみを選んだ人、以外に表示）。（選択式（単一））

重要であると回答した人の割合



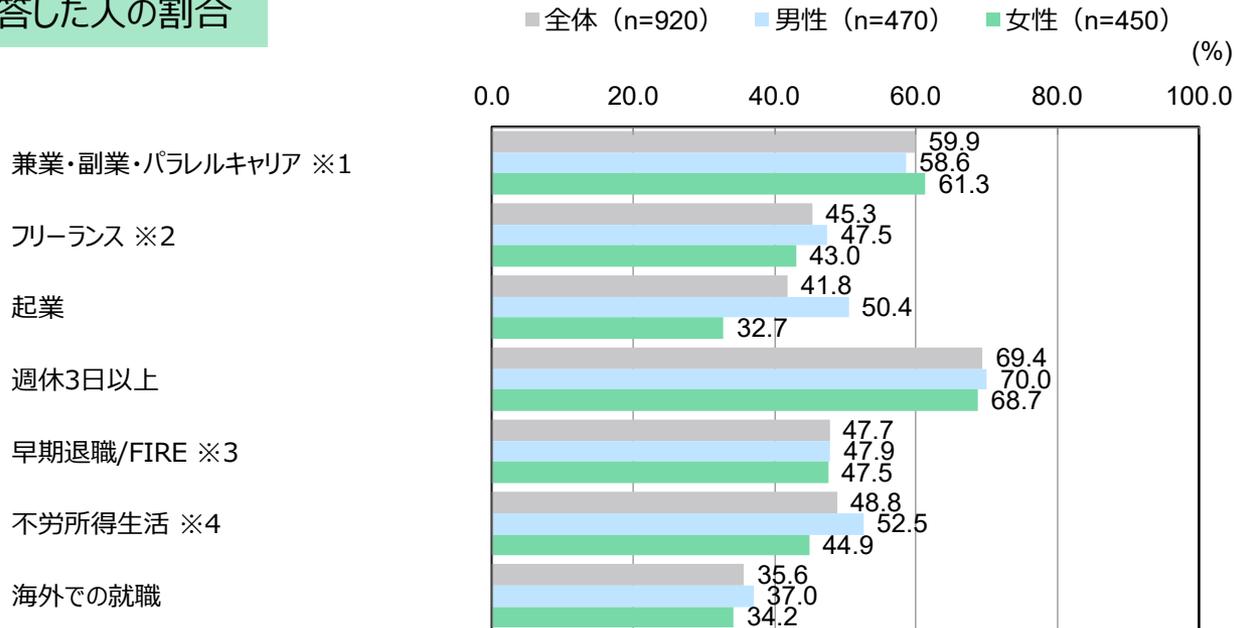
新しい働き方への考え

近年増えている新しい働き方に対する関心を聞いたところ、「関心がある」(※)との回答が男女とももっとも多かったのは「週休3日以上」、続いて「兼業・副業・パラレルキャリア」であった。男女で差が出た働き方は「起業」や「不労所得生活」で、いずれも男性が女性を上回った。

※「関心がある」と「どちらかと言えば関心がある」の合計。

質問8：あなたは、以下に示すキャリアや働き方に、どの程度関心がありますか。(選択式(単一))

関心があると回答した人の割合



- ※1 兼業・副業とは、収入を増やすために、2つ以上の仕事を行うこと。パラレルキャリアとは、異なる経験を得るために2つ以上の仕事を行うこと。
- ※2 フリーランスとは、組織に所属せず、個人で仕事を得て生計を立てること。
- ※3 不労所得とは、投資からの収益などのように、一般的な労働を伴わずに、構築した仕組みや資産から生み出される収入のこと。不労所得生活とはこうして得たお金を使って生活することを指す。
- ※4 FIREとは、“Financial Independence, Retire Early”の頭文字を取ったもので、「経済的自立」と「早期リタイア」を意味する。

詳細

1. 現状に対する認識・将来の暮らし方に対する考え方
2. 働き方・キャリアに対する価値観
3. パートナーシップ・結婚に対する考え方
4. 子どもをもつこと・子育てに対する考え方
5. 政府の少子化対策に対する考え

将来結婚したいか/実際に結婚すると思うか（性別）

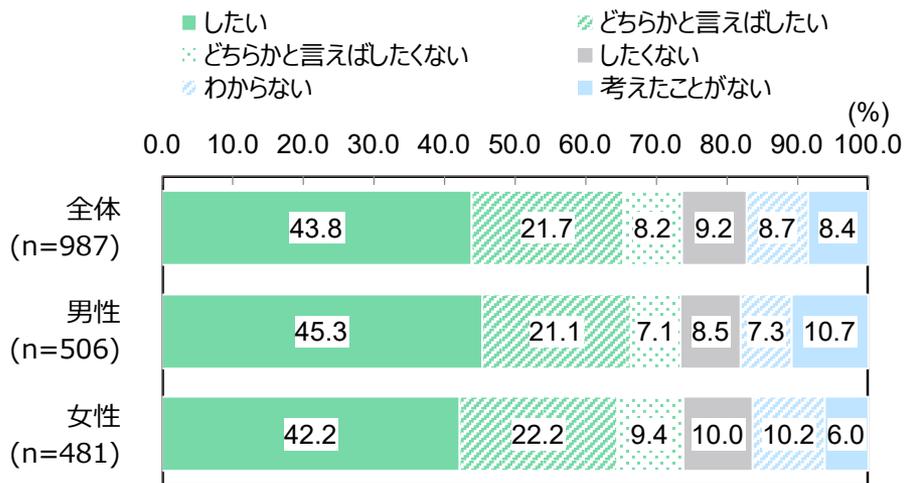
将来結婚を「したい」と回答した人は男女とも4割を超えているが、実際に将来結婚を「必ずすると思う」と回答した人は男性で2割弱、女性では1割強にとどまっている。希望と実際には差が生じると考えている人が一定数いると推測される。

また、男性では、「考えたことがない」と回答している人が1割強存在し、女性よりもその割合が高い。

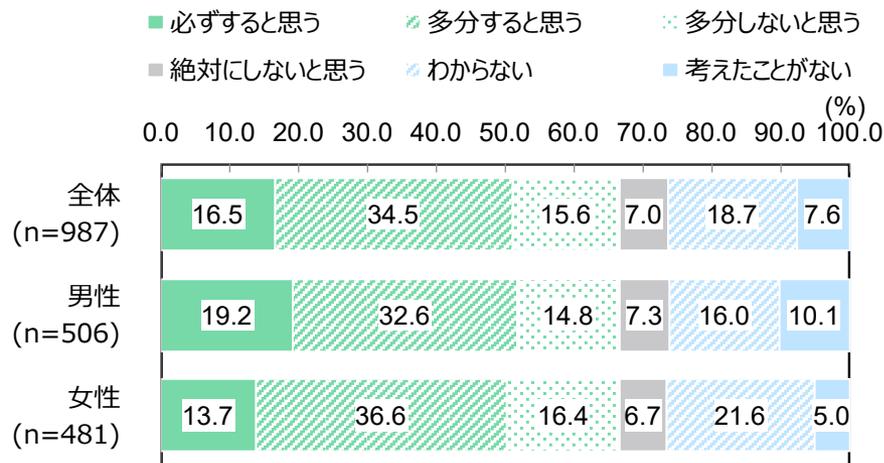
質問10：あなたは、将来結婚したいと思いますか（事実婚を含む）。（選択式（単一））

質問11：あなたは、実際には、自分は将来結婚すると思いますか（事実婚を含む）。（選択式（単一））

質問10：将来結婚したいか



質問11：実際には結婚すると思うか



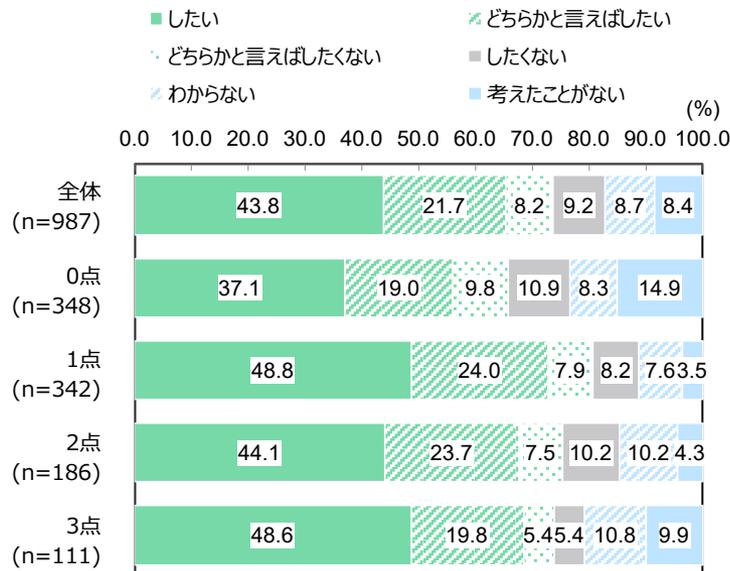
将来結婚したいか/実際に結婚すると思うか (簡易版SES別)

簡易版SES代替指標の得点が低い（0点）回答者は、将来結婚を「したい」と回答した人の割合が低く、「考えたことがない」と回答した割合が高い。また、実際に結婚すると思うかどうかについて、同指標の得点が高い（3点）回答者は「必ずすると思う」の割合が高い。

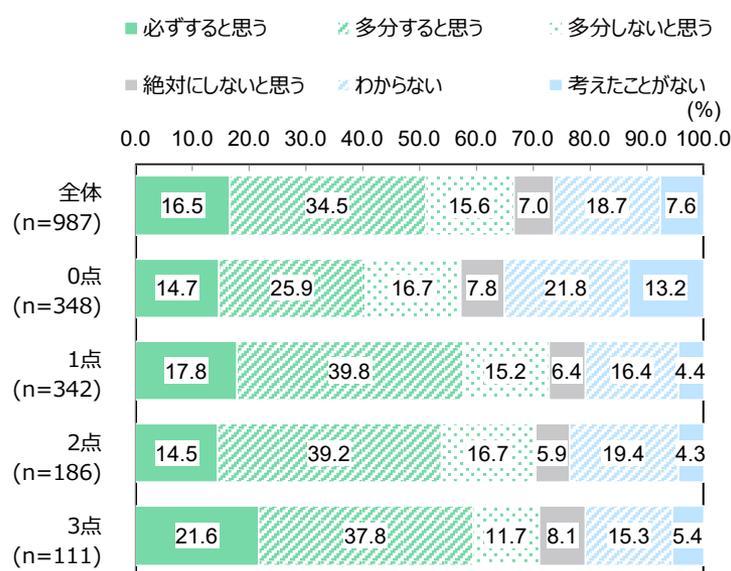
質問10：あなたは、将来結婚したいと思いますか（事実婚を含む）。（選択式（単一））

質問11：あなたは、実際には、自分は将来結婚すると思いますか（事実婚を含む）。（選択式（単一））

質問10：将来結婚したいか



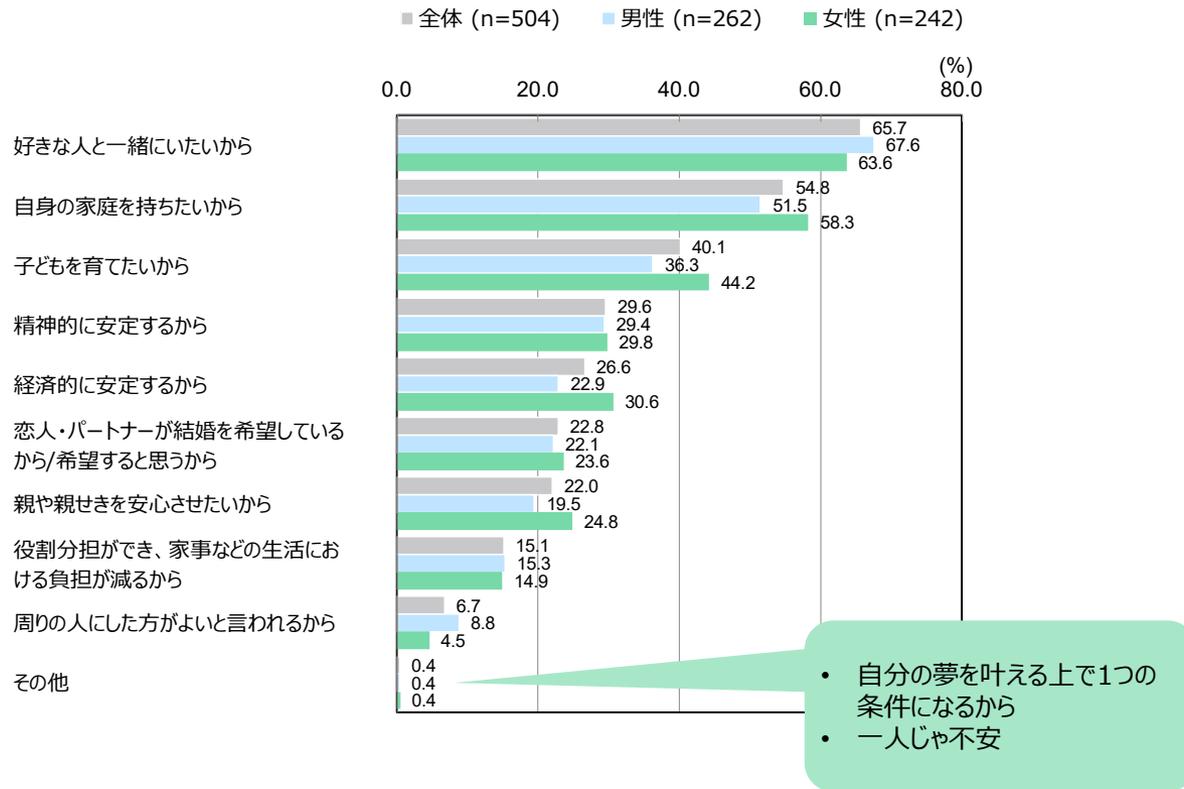
質問11：実際には結婚すると思うか



将来結婚すると思う理由（性別/グラフ）

将来結婚すると思う理由としては、男女とも「好きな人と一緒にいたいから」が一位。「自分の家庭を持ちたいから」、「子どもを育てたいから」、「経済的に安定するから」などの選択肢は特に女性に多く選ばれている。

質問12：自分が将来結婚すると思う理由として、あてはまるものを全て選んでください。
（選択式（複数））



※「全体」の降順で掲載。

将来結婚すると思う理由（性別/数表）

順位で見ると、1位の「好きな人と一緒にいたいから」、2位の「自身の家庭を持ちたいから」、3位の「子どもを育てたいから」は男女で共通。4位以下は同じ項目間でも男女で微妙に順位が異なっている。

質問12：自分が将来結婚すると思う理由として、あてはまるものを全て選んでください。
（選択式（複数））

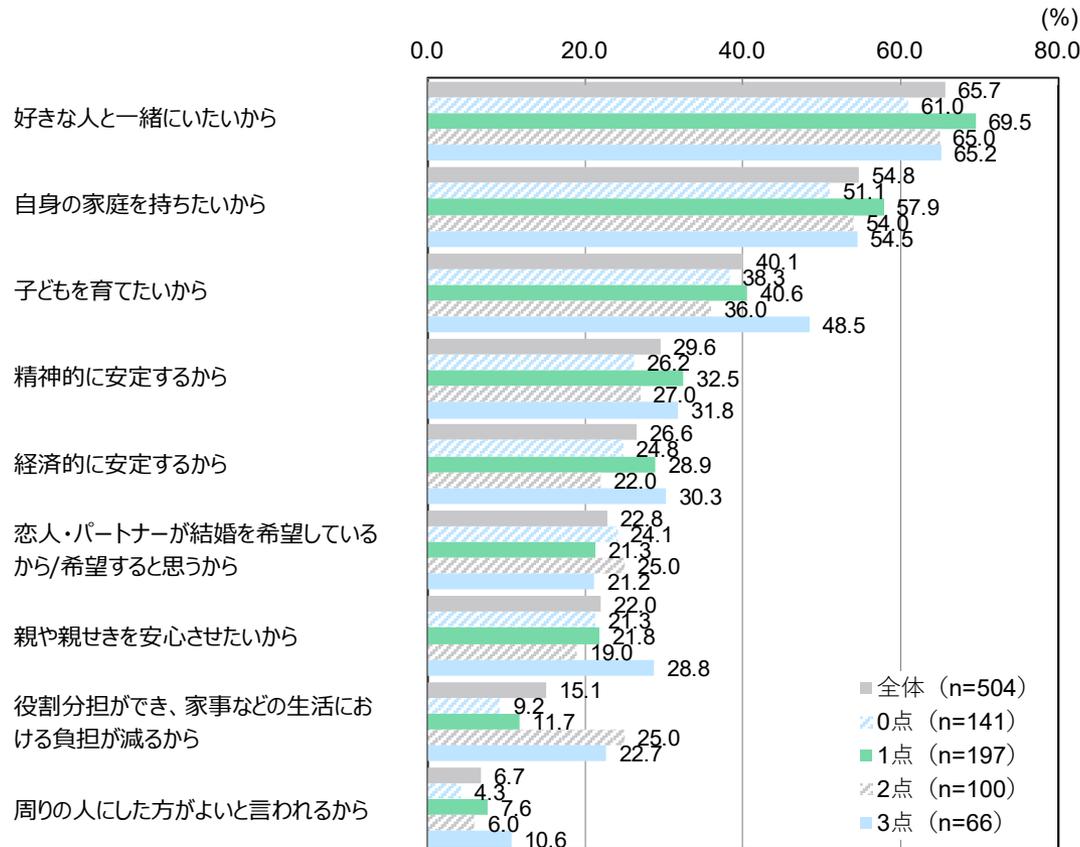
男性（n=262）	
1位	好きな人と一緒にいたいから(67.6%)
2位	自身の家庭を持ちたいから(51.5%)
3位	子どもを育てたいから(36.3%)
4位	精神的に安定するから(29.4%)
5位	経済的に安定するから(22.9%)
6位	恋人・パートナーが結婚を希望しているから/希望すると思うから(22.1%)
7位	親や親せきを安心させたいから(19.5%)
8位	役割分担ができ、家事などの生活における負担が減るから(15.3%)
9位	周りの人にした方がよいと言われるから(8.8%)
10位	その他(0.4%)

女性（n=242）	
1位	好きな人と一緒にいたいから(63.6%)
2位	自身の家庭を持ちたいから(58.3%)
3位	子どもを育てたいから(44.2%)
4位	経済的に安定するから(30.6%)
5位	精神的に安定するから(29.8%)
6位	親や親せきを安心させたいから(24.8%)
7位	恋人・パートナーが結婚を希望しているから/希望すると思うから(23.6%)
8位	役割分担ができ、家事などの生活における負担が減るから(14.9%)
9位	周りの人にした方がよいと言われるから(4.5%)
10位	その他(0.4%)

将来結婚すると思う理由（簡易版SES別）

簡易版SES代替指標の得点が低い（0点）回答者は、「役割分担ができ、家事などの生活における負担が減るから」の回答率が低い。

質問12：自分が将来結婚すると思う理由として、あてはまるものを全て選んでください。
（選択式（複数））



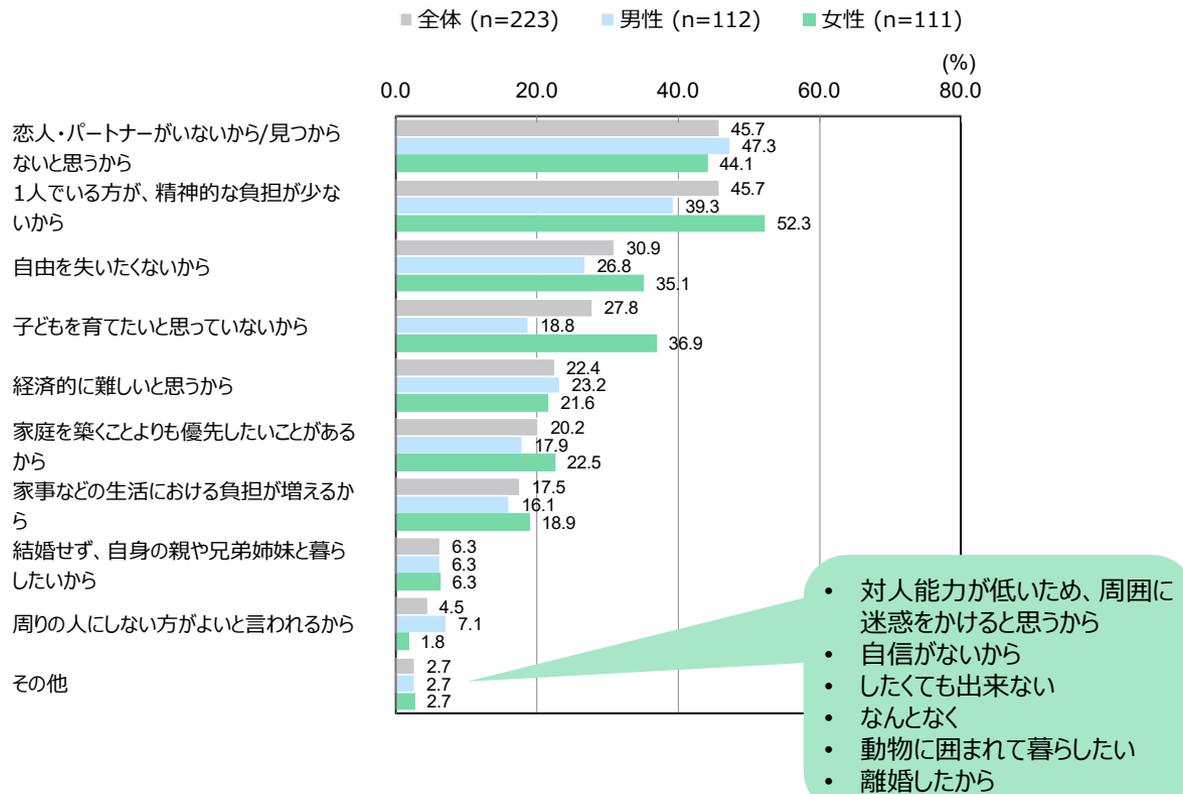
※「全体」の降順で掲載。

将来結婚しないと思う理由（性別/グラフ）

自分が将来結婚しないと思う理由として、男性では「恋人・パートナーがないから/見つからないから」が最多。女性でも同理由が第二位。

女性では「1人である方が、精神的な負担が少ないから」がもっとも多いほか、「自由を失いたくない」、「子どもを育てたいと思っていない」も男性よりも多い。

質問13：自分が将来結婚しないと思う理由として、あてはまるものを全て選んでください。
（選択式（複数））



将来結婚しないと思う理由（性別/数表）

順位で見ると、男女とも「恋人・パートナーがないから/見つからないと思うから」、「1人である方が、精神的な負担が少ないから」が上位であることは共通している。女性では「子どもを育てたいと思っていないから」が3位であるのに対し、男性は「自由を失いたくないから」が3位。

質問13：自分が将来結婚しないと思う理由として、あてはまるものを全て選んでください。
（選択式（複数））

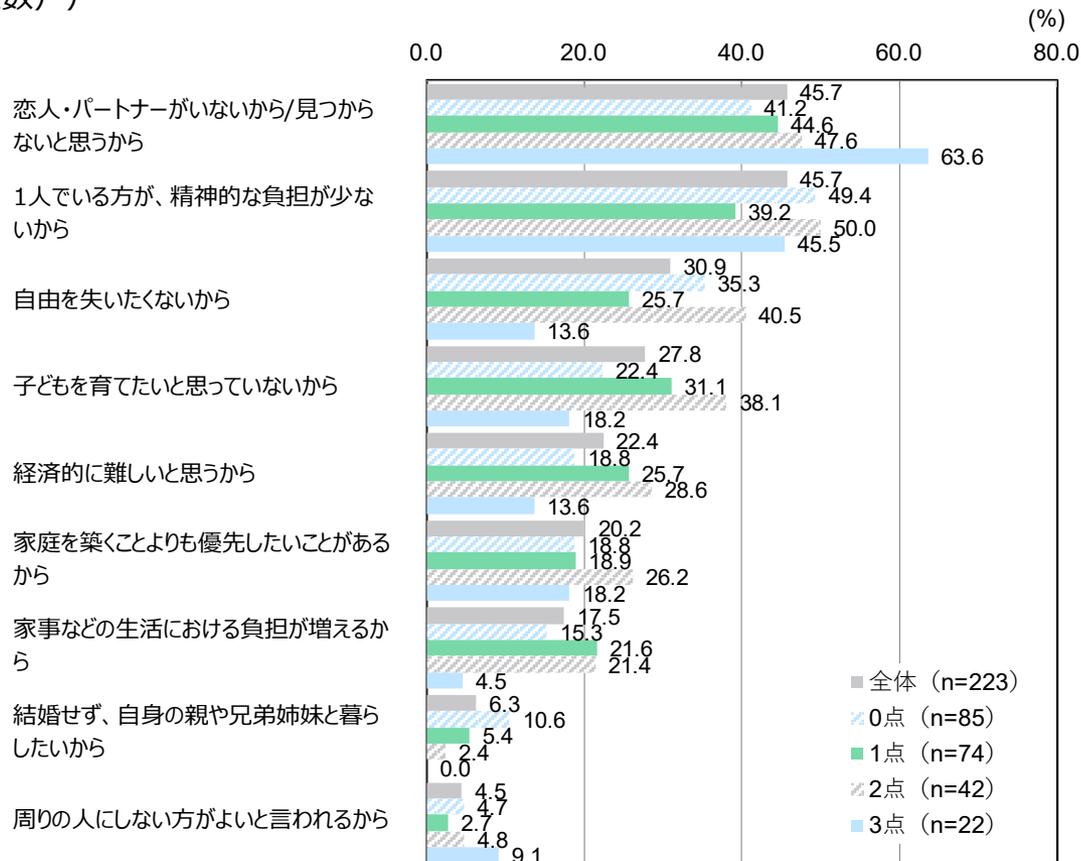
男性（n=112）	
1位	恋人・パートナーがないから/見つからないと思うから(47.3%)
2位	1人である方が、精神的な負担が少ないから(39.3%)
3位	自由を失いたくないから(26.8%)
4位	経済的に難しいと思うから(23.2%)
5位	子どもを育てたいと思っていないから(18.8%)
6位	家庭を築くことよりも優先したいことがあるから(17.9%)
7位	家事などの生活における負担が増えるから(16.1%)
8位	周りの人にしない方がよいと言われるから(7.1%)
9位	結婚せず、自身の親や兄弟姉妹と暮らしたいから(6.3%)
10位	その他(2.7%)

女性（n=111）	
1位	1人である方が、精神的な負担が少ないから(52.3%)
2位	恋人・パートナーがないから/見つからないと思うから(44.1%)
3位	子どもを育てたいと思っていないから(36.9%)
4位	自由を失いたくないから(35.1%)
5位	家庭を築くことよりも優先したいことがあるから(22.5%)
6位	経済的に難しいと思うから(21.6%)
7位	家事などの生活における負担が増えるから(18.9%)
8位	結婚せず、自身の親や兄弟姉妹と暮らしたいから(6.3%)
9位	その他(2.7%)
10位	周りの人にしない方がよいと言われるから(1.8%)

将来結婚しないと思う理由（簡易版SES別）

将来結婚すると思う理由として、簡易版SES代替指標の得点が高い（3点）回答者は、「恋人・パートナーがないから/見つからないと思うから」が多く、「自由を失いたくないから」、「子どもを育てたいと思っていないから」、「経済的に難しいと思うから」、「家事などの生活における負担が増えるから」が少ない。

質問13：自分が将来結婚しないと思う理由として、あてはまるものを全て選んでください。
（選択式（複数））



※「全体」の降順で掲載。

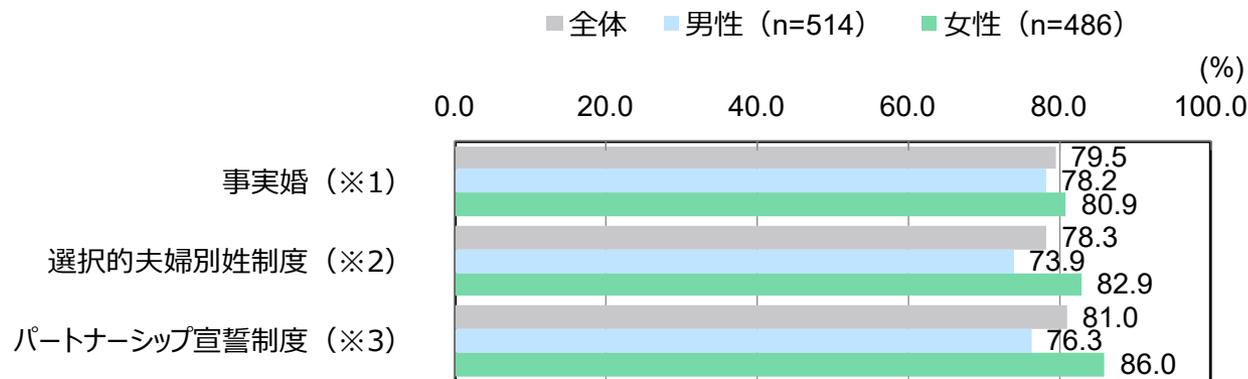
多様なパートナーシップへの考え

近年増えている多様なパートナーシップに対する考えを聞いたところ、「事実婚」、「選択的夫婦別姓制度」、「パートナーシップ宣誓制度」のいずれについても「賛成である」(*)との回答が7~8割となった。特に女性の方が賛成派が多い。

※「賛成である」と「どちらかと言えば賛成である」の合計。

質問14：あなたは、事実婚、選択的夫婦別姓制度、パートナーシップ制度について、どのように考えますか。(選択式(複数))

賛成であると回答した人の割合



※1 事実婚とは、婚姻届を提出せず、婚姻の意思をもって、共同生活を送ること。

※2 選択的夫婦別姓制度とは、希望する夫婦が結婚後にそれぞれの結婚前の氏を名乗ることも認めるもの(出所：法務省)

※3 パートナーシップ宣誓制度とは、各自治体が同性同士のカップルを婚姻に相当する関係と認め証明書を発行する制度のこと(出所：日本LGBTサポート協会)

詳細

1. 現状に対する認識・将来の暮らし方に対する考え方
2. 働き方・キャリアに対する価値観
3. パートナーシップ・結婚に対する考え方
4. 子どもをもつこと・子育てに対する考え方
5. 政府の少子化対策に対する考え

将来子どもを持ちたいか/実際に持つと思うか（性別）

男性で6割強、女性で6割弱が「将来子どもを持ちたい」(※1)と回答。他方、実際には将来子どもを持つと思うかについては、「持つと思う」(※2)が男女とも4割台にとどまっている。女性では「将来子どもを持ちたくない」(※3)と回答した人も併せて3割弱存在。

※1 子どもを「持ちたいと思う」と「どちらかと言えば持ちたいと思う」の合計。

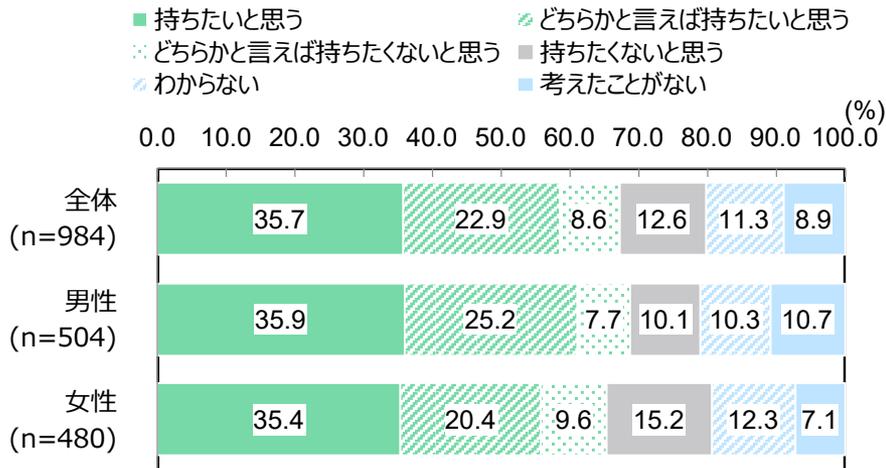
※2 子どもを「必ず持つと思う」と「多分持つと思う」の合計。

※3 子どもを「持ちたくないと思う」と「どちらかと言えば持ちたくないと思う」の合計。

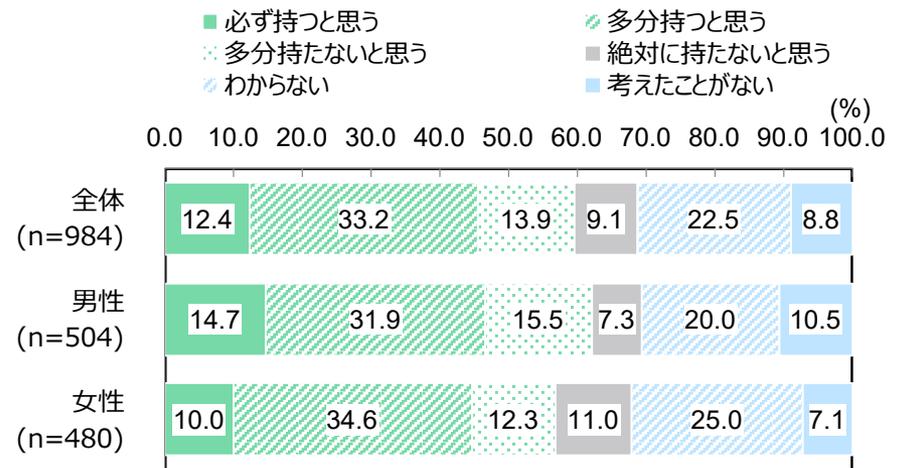
質問15：あなたは将来、子どもを持ちたいと思いますか。（選択式（単一））

質問16：あなたは、実際には、自分は将来、子どもを持つと思いますか。（選択式（単一））

質問15：将来子どもを持ちたいか



質問16：実際には子どもを持つと思うか



将来子どもを持ちたいか/実際に持つと思うか (簡易版SES別)

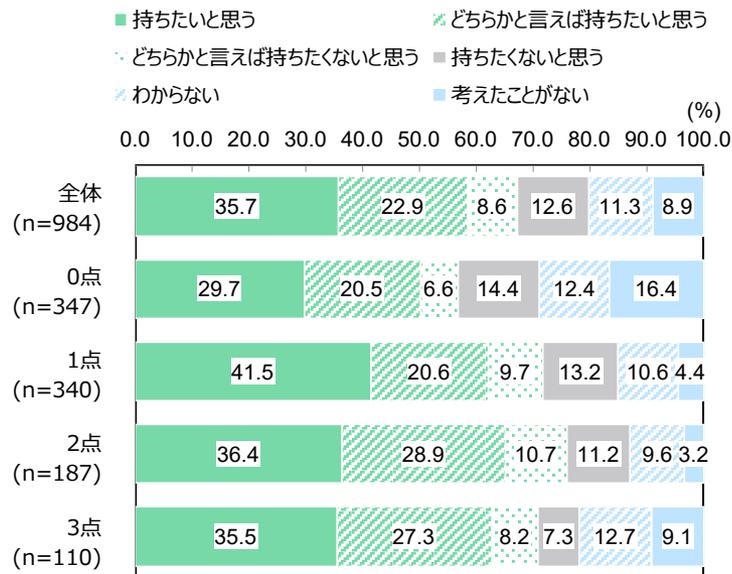
簡易版SES代替指標の得点が低い（0点）回答者は、将来子どもを持ちたいか・実際に持つと思うかを「考えたことがない」人の割合が高い。また得点が高い（3点）回答者は、「持ちたくないと思う」人の割合が少ない。実際に子どもを持つと思うかどうかについては、得点が高い回答者ほど「持つと思う」(*)と回答した割合が多い。

※ 子どもを「必ず持つと思う」と「多分持つと思う」の合計。

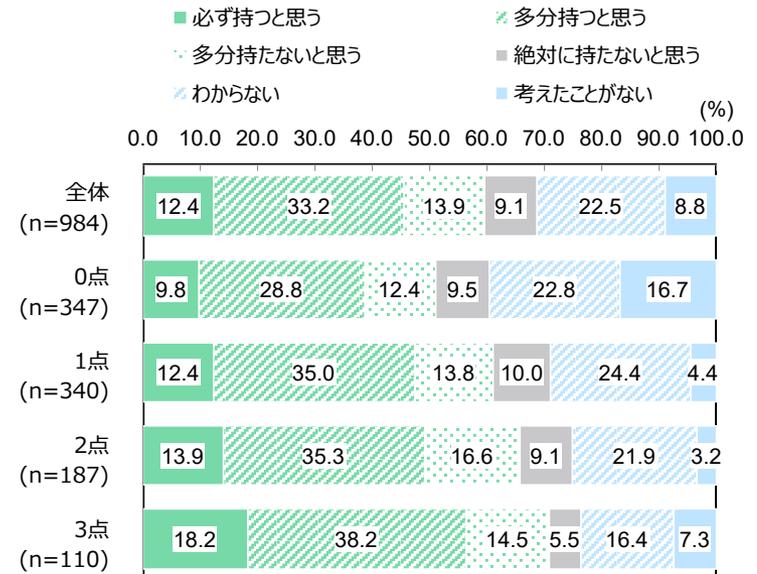
質問15：あなたは将来、子どもを持ちたいと思いますか。（選択式（単一））

質問16：あなたは、実際には、自分は将来、子どもを持つと思いますか。（選択式（単一））

質問15：将来子どもを持ちたいか



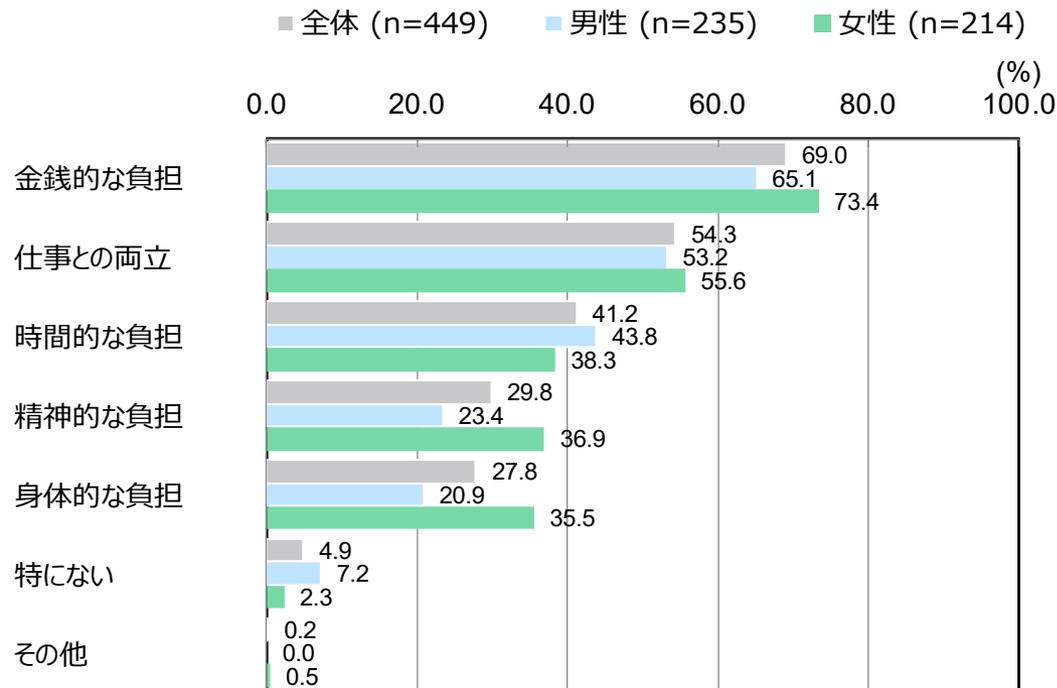
質問16：実際には子どもを持つと思うか



将来子どもを持つうえでの障壁（性別）

将来子どもを持つうえでの障壁としては、男女とも「金銭的な負担」と「仕事との両立」がトップ。女性は「時間的な負担」以外のすべての項目で男性を上回っている。

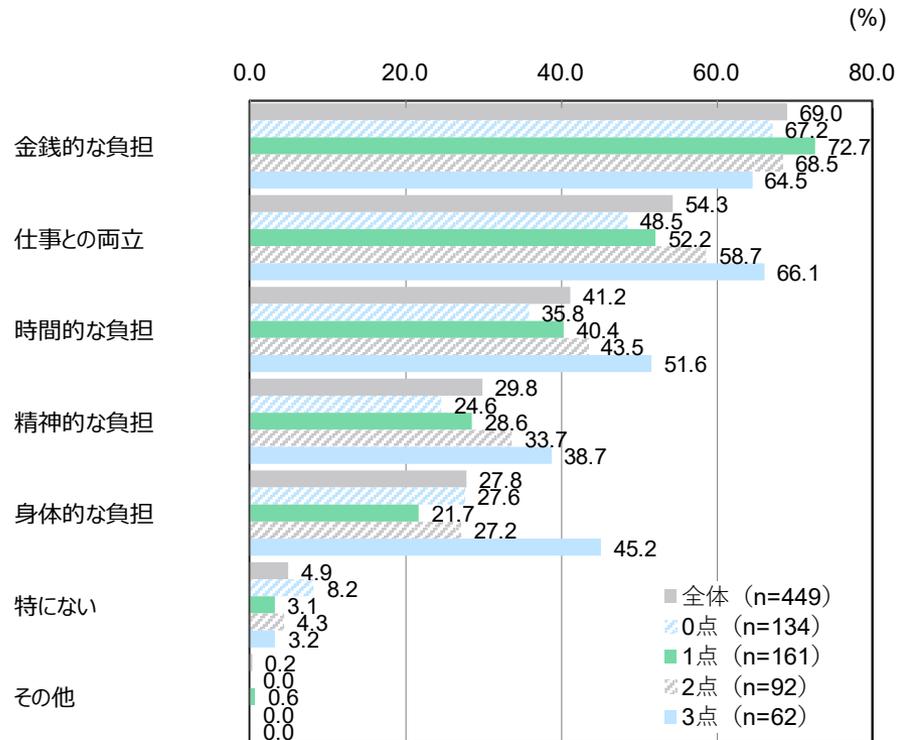
質問17：あなたが将来、子どもを持つにあたって、特に障壁となる可能性が高いと思うものを、次の中からいくつかも選んでください。（選択式（複数））



将来子どもを持つうえでの障壁（簡易版SES別）

将来子どもを持つうえでの障壁としては、簡易版SES代替指標の得点が高い（3点）回答者は「仕事との両立」、「時間的な負担」、「身体的な負担」、「精神的な負担」など「金銭的な負担」以外のすべての項目で、他グループよりも選択した割合が高い。

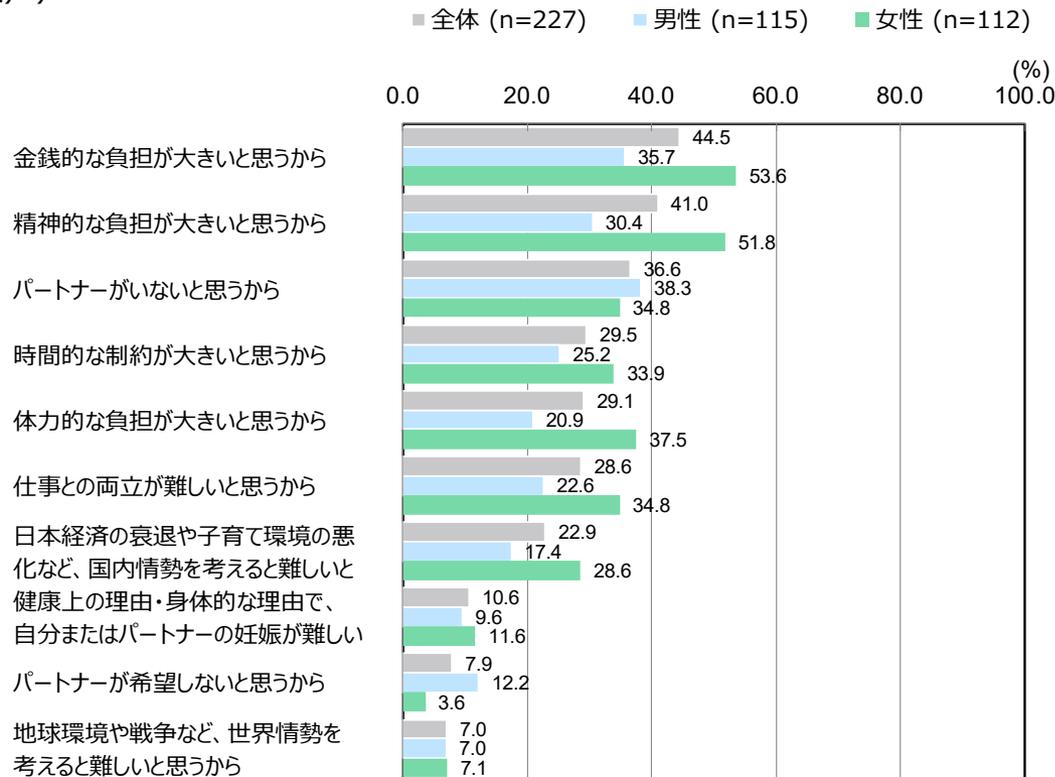
質問17：あなたが将来、子どもを持つにあたって、特に障壁となる可能性が高いと思うものを、次の中からいくつか選んでください。（選択式（複数））



将来子どもを持たない理由（性別）

将来子どもを持たない理由としては、女性では「金銭的な負担が大きいと思うから」、「精神的な負担が大きいと思うから」が上位。これに対し、男性では「パートナーがいらないと思うから」がトップ。

質問18：あなたが将来、子どもを持たないと思う理由について、あてはまるものを全て選んでください。
（選択式（複数））

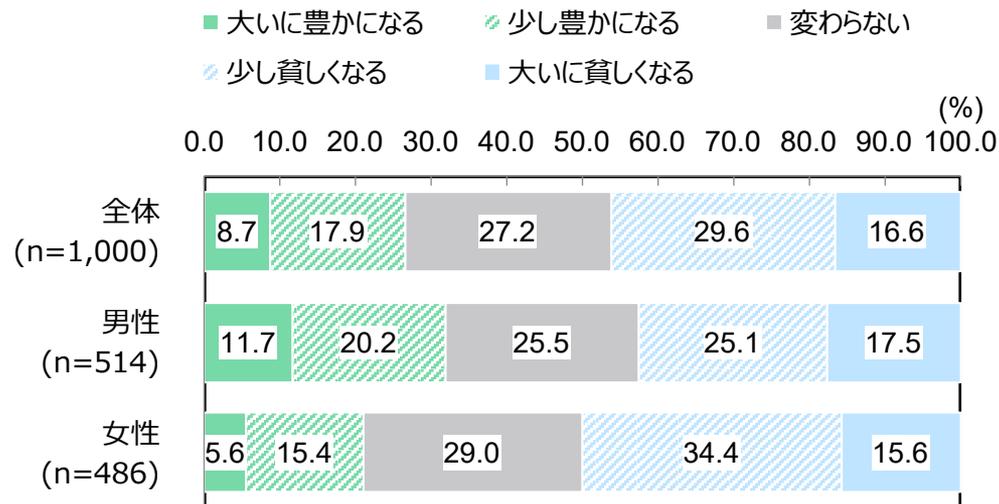


自世代と子どもの将来との比較

自分の世代と、今年生まれる子供の将来を比較した際、経済的に「貧しくなる」と回答した人が男性では4割強、女性では5割を占めている。

※「大いに貧しくなる」と「少し貧しくなる」の合計。

質問19：今年生まれる子どもの将来は、現在18歳前後のあなた方の世代と比べ、経済的にどのようになると思いますか。（選択式（単一））



詳細

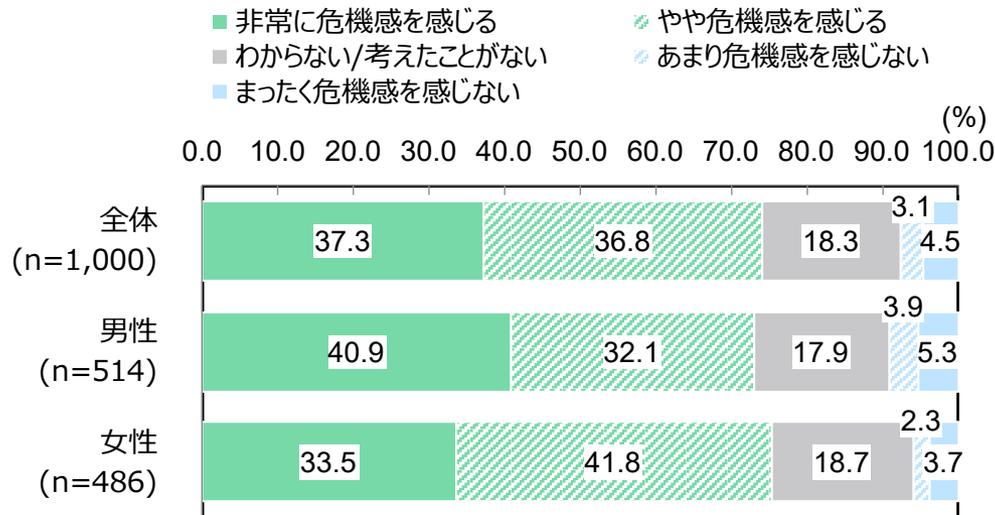
1. 現状に対する認識・将来の暮らし方に対する考え方
2. 働き方・キャリアに対する価値観
3. パートナーシップ・結婚に対する考え方
4. 子どもをもつこと・子育てに対する考え方
5. 政府の少子化対策に対する考え

少子高齢化への危機感

少子高齢化に「危機感を感じる」と回答した人が男女とも7割を超えている。

※「非常に危機感を感じる」と「やや危機感を感じる」の合計。

質問20：日本における出生数は2020年に84万人となり過去最少を記録する一方、65歳以上人口は2020年に28.9%であり、増加傾向にあります。こうした状況を踏まえ、あなたは少子高齢化について、どう感じますか。（選択式（単一））

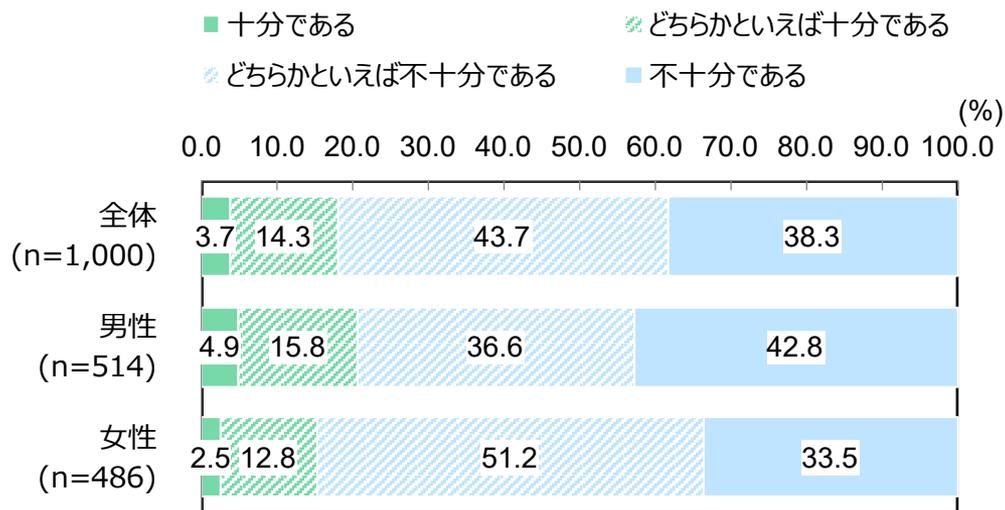


少子高齢化対策への評価

少子高齢化に対する政府の対応について、「不十分である」と回答した人が男女とも約8割。

※「十分である」と「どちらかといえば十分である」の合計。

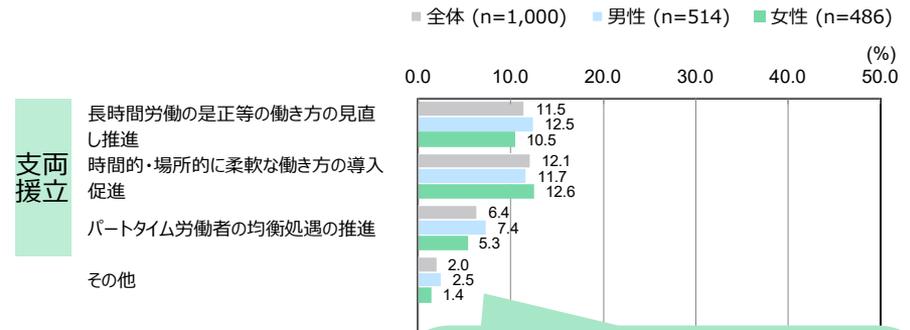
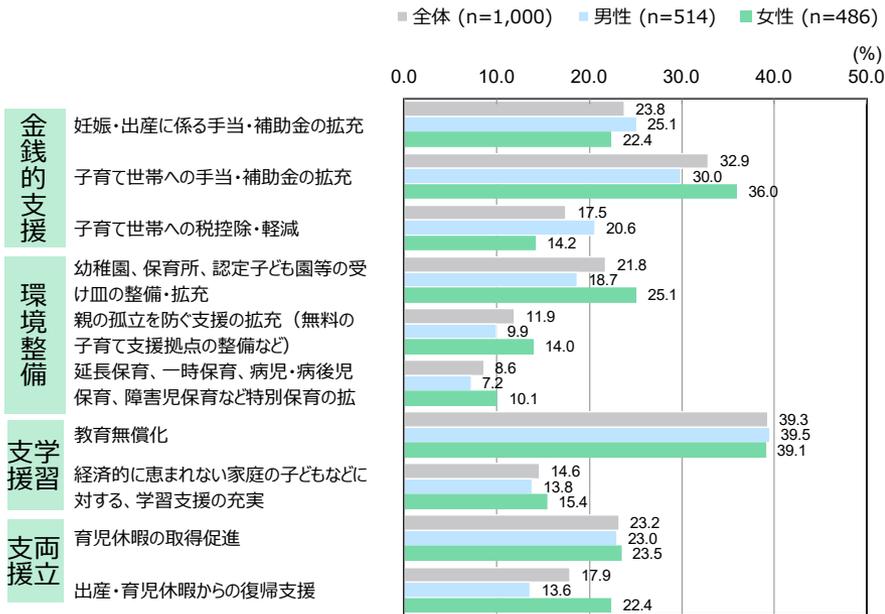
質問21：あなたは、少子高齢化に対する現在の政府の対応をどのように考えますか。（選択式（単一））



実施してほしい少子化対策

少子化対策として実施してほしい政策としては、男女とも「教育の無償化」が第一位、「子育て世代への手当・補助金の拡充」が第二位。少子化の背景には経済的な理由があるとの認識があると推測される。

質問22：少子化への対応として、妊娠・出産・子育てをしやすい社会になるために政府に実施して欲しい政策はなんですか。3つまで選んでください。（選択式（複数））



- ・ 給料上昇（複数）
- ・ 一人あたりに決まった金額の給付
- ・ 経済を回して豊かな国へ
- ・ 子供を持つ持たないに関わらず、経済支援をしなければ少子化の対策にはならない
- ・ 一夫多妻制の導入
- ・ 子育てのサポート
- ・ 予防接種、歯科の治療など、連れて行くのに大変というのを、解決して欲しい
- ・ 結婚がしやすいようなシステムの構築
- ・ 大学を減らす

少子化対策の財源

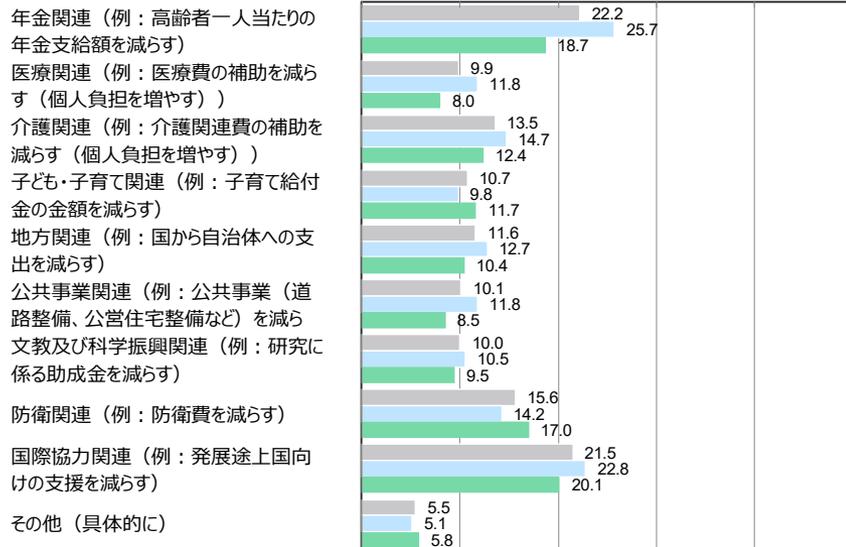
少子化対策のための財源確保の方法については、「法人税率を上げる」、「年金関連支出を減らす」、「国際協力関連支出を減らす」が上位。

質問23：質問21で、少子化対策は「どちらかという和不十分である」または「不十分である」と回答した方に伺います。十分な少子化対策を実施するため、必要な財源を追加で確保する方法について、あなたの考えを教えてください。適切だと思うものを3つまで選んでください。（選択式（複数））

支出を減らす

■ 全体 (n=820) ■ 男性 (n=408) ■ 女性 (n=412)

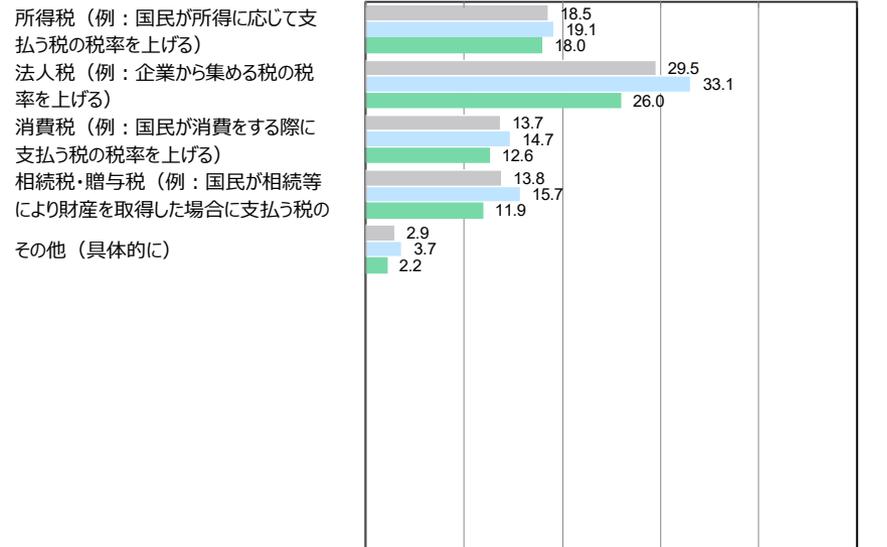
(%)



収入を増やす

■ 全体 (n=820) ■ 男性 (n=408) ■ 女性 (n=412)

(%)



第52回18歳意識調査 「価値観・ライフデザイン」 示唆



家庭環境のライフ デザインへの影響

簡易版SES代替指標の得点が高い回答者の方が、結婚や子どもを持つことについて具体的に考えていることが推察できる結果となった。様々な環境下で育つ子どもたちが自分の人生を能動的にデザインできるようになるための機会を、家庭に加えて学校や社会全体の支援の下、創出していく必要があるのではないか。



希望と実際の乖離

結婚や子どもを持つことについては、希望する人の割合と、実際にそう思う人の割合に差が出ている。特に女性は、精神的・経済的な負担感や不安感を感じていることが見て取れる。周囲の人やメディアなどから見聞きした情報を基に結婚・出産・子育てに対して漠然とした不安を抱えている若い世代に対し、その不安を軽減するような情報提供や体験者とのコミュニケーションなどの支援が必要ではないか。



新たなカタチに対 する柔軟性

近年増加している新たなパートナーシップの形や働き方について、肯定的な意見が大多数を占める結果となった。自分の人生で大切にしたいものを守りながら自分らしく生きることを模索するため、従来 of 常識や在り方にはとらわれない柔軟な思考を持った若者が増えていると推測される。



少子化対策への ニーズ

7割以上の方が少子高齢化に危機感を感じている一方、政府の対応については約8割が「不十分である」と評価した。少子化対策として実施してほしい政策としては経済的な支援が多く挙げられており、男女とも子育てに関する経済的な政府の後押しが少子化の解消に繋がると認識していると推測される。

付帯資料：「簡易版社会経済的地位代替指標（簡易版SES代替指標）」について

- 「NCES（2012）では、過去のアメリカを中心とした学力研究でSESがどのように測定されてきたかを概観し、SESの定義を次のように示している。
SESは広い意味では、ある人物が経済的、社会的、文化的および人的資本に関わる資源にどの程度アクセスできるかを表すものとして定義される。伝統的には、生徒のSESは両親の教育水準、両親の職業的地位、そして家庭の所得を含むものとされる。より広義には、SESはその他の家庭の資源やその生徒が住む地区や社会にある資源を含むものとされる。（NCES 2012, p.14）」
（以上、出典1より引用（※））
- 過去の研究により、「学業成績以外にも、SESは子どもの心身の発達や健康、適応との関連も明らかにされている」。（出典2より引用）
- SESの構成要素としては、両親の教育水準、両親の職業的地位、家庭の所得があるとされ、これに加えて家庭の所有物が含まれることがある。家庭の所有物は主に家庭の所得の代理指標として用いられる。あくまで「代理指標」であることや、どのような所有物が価値あるものとされるかは時代によって異なるなどの留意点はあるが、家庭の所有物を尋ねることは、所得を尋ねることに比べプライバシーを侵害しにくいという利点がある。（出典1を参考）
- 本18歳意識調査では、調査対象者の中学生時代のSESにより、人生における価値観やライフデザインに対する彼らの現在の姿勢にどのような違いがあるか（或いは違いはないか）を推察するため、日本で行われた研究（出典2）に基づき作成された「簡易版SES代替指標」を用いることとした。
- 「簡易版SES代替指標」は、経済協力開発機構（OECD）が行うPISA（Programme for International Student Assessment）と呼ばれる国際的な生徒の学習到達度調査で用いられている、家庭の所有物17項目を基に、その精度を一定の水準で保ったままより少ない項目数でSESを反映できる簡易版の代替指標である。
- 上記を踏まえ、本18歳意識調査においては、「簡易版SES代替指標」は主に家庭の経済状況を示すものとして解釈する。すなわち、同指標の得点が高い回答者は経済的に恵まれた家庭で育ち、得点が高い回答者はそうではない可能性が高いという解釈を行うこととする。

出典1：国立大学法人 福岡教育大学「児童生徒や学校の社会経済的背景を分析するための調査の在り方に関する調査研究」（平成 29 年 3 月 31 日）、

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/fieldfile/2017/11/28/1398296_1.pdf

※出典1に記載のあるNCESの出所は以下のとおり。NCES（National Center for Education Statistics）, 2012, Improving the Measurement of Socioeconomic Status for the National Assessment of Educational Progress: A Theoretical Foundation, Available online at https://nces.ed.gov/nationsreportcard/pdf/researchcenter/Socioeconomic_Factors.pdf (accessed February 24, 2017).

出典2：石井 僚, 村山 航, 福住 紀明, 石川 信一, 大谷 和夫, 榎 美知子, 鈴木 高志, 田中 あゆみ, 家庭の所有物を用いた中学生用簡易版社会経済的地位代替指標の作成, 心理学研究, 2019, 90 巻, 5 号, p. 493-502, 公開日 2019/12/25,